

►本号の主な内容◀

- 2面 「国民春闘」「経済民主化論」を批判する
 3面 5・23狹山闘争へ 5・15沖縄闘争へ 社説=思
 い切って党勢を拡大しよう
 4・5面 ロッキード事件の本質と労働者階級の使命
 6面 古典学習(1)「共産党宣言」「賃労働と資本」
 に学ぶ 国際評論=朝鮮情勢の現局面
 7面 聞いの現場から=全金 婦人解放通信
 8面 帝国主義国共産党の「新しい道」

紅旗

共產主義者同盟(紅旗)中央機關紙

第 2 号

1976年 5月1日

月刊=毎月1日発行

8頁 1部 15.0円

20回分・(送料共) 4,000円

スト権奪還ストに決起した電通労働者



全般的な嵐の時代に
際し正規の攻囲軍を

した。そして、メーデーの決議は、次の三つの項目が列記された。

「一、吾人は、悪法“安養費法”第十七条の撤廃を要求す。

二、吾人は、穀糧米にさしし失業の防止を要求す。

三、吾人は、間との生活を保証する最低賃金法の設定を要求す。

四、吾人は、人間としての生活を保証する最低賃金法の設定を要求す。」

我々は、この「宣言」と「決議」の中に、天皇制権力と資本の圧迫をねじえし労働階級の解放を闘うとして、決起した労働者の気迫と歓びを見るところがある。メーデーを迎えるに当り、労働者は、

に攻撃が強まり、物価高騰がつづく。かがいにあらね。首領として資本主導的になってきているが、資本主義の下では、こうした諸問題を根本的に解決することは不可能だという真理を思い知らされている。時代の趨勢は、経済闘争が政治闘争と結合し、政治闘争は武装蜂起に転化するという方向に滔々と流れている。労働者は、この趨勢を我が手に握りしめ、断固として勝利に導かねばならない。

この最後の勝利を唯一保障するものこそ、強大な革命党の建設である。労働階級は、自らの前衛

推進階級たる革命党を前にして、最後の勝利を手中にする」とはできないこと、このことを片時も忘れてはならない。また、労働者階級を敗北の泥沼に誘つ現代修正主義、社会帝国主義、社会排外主義と仮借なく闘い、これを打倒しなければならない。

歴史的使命を胸に、万国の労働者、被抑圧民族と團結しメーデーに決起しよう。

世界プロレタリア共産主義革命の勝利万歳！ 万国の労働者團結せよ、全国の共産主義者、労働者は共産主義者同盟（紅旗）に結集せよ！

第四七回 メーデー万歳！

万国の労働者団結せよ 第47回メーデー万歳

元の意図とともに、先達の言葉を聞いて、心に残る。このためには、必ずしも、その言葉を理解する力が不可欠である。たとえば、「三国の人民は、反米救國戦争の勝利一年周年を祝う日」である。インドシナの人民は、この日を「万国労働者者抗争の日」として、毎年、祝う。この抗争は、1945年8月、日本が敗戦した後、多くの労働者が、米軍の占領下で、労働を強制されたことに対する抗議として、起きたものである。この抗争は、多くの労働者が、労働権を行使する権利を奪われたことに対する抗議として、起きたものである。この抗争は、多くの労働者が、労働権を行使する権利を奪われたことに対する抗議として、起きたものである。

部隊、最も確固とした尾一貫した
事態が進行している。労働者階級が、自らの手で自らの運命を切り開きだすことによって、ブルジョア階級と米帝の支配が、目に見えて不安定なものになった。まさに、武装蜂起をもってこの支配を覆えし、労働者階級の独裁を樹立する問題が浮かびあがってきたのである。

先達の闘い引き継ぎ
勝利へ一層奮闘せよ

第四七回 メーデーに際し労働者階級に訴える。
この日には、万国の労働者が、團結を示威し、労働者階級の解放の為に鬪い抜くことをお互に誓い合うのだ。単なるお祭りではないのは当然としても、また単に、個々の部分的諸要求の為の決起集会でもない。労働者は、全世界の仲間と團結し、労働者階級の根本的な解放を鬪いとする問題に思いをめぐらし、このメーデーに決起しなければならない。

第47回 メードーに際し労働者階級に訴える

革命党なくして最後の勝利はない

発行 紅旗社
本社 東京神田郵便局私書箱45号
大阪支局 大阪市福島区大開1-19-13副島ビル
(06) 462-7030
沖縄局 那覇市東郵便局
私書箱 2035号

回入テト万巒・

第四七回 入テト万歳

春期闘争の最前线にプロ独の旗を

「左」右の融和主義打ち砕き

5・23 中央大集会へ

石川氏逮捕13周年糾弾

最高裁判所にむけた狹山差別裁判糾弾戦争の第一弾として、部落解放同盟中央本部は、石川一雄氏の逮捕三周年にあたり、五月二日に同盟本部より指令した。また部落解放中央集会議は、「石川一雄氏逮捕三周年糾弾中央集会」を開いた。

昨年一〇月三一日の東京高裁一方で、部落解放運動内部に分裂、たりしめんとしているのである。寺尾差別裁判は、その手口の巧妙さにおいては極めてひいでアルジョアジーの支配のやり口であつた。「死刑」判決を立「無期」代にはまつある中で、アルジョアジーは一層酷に部落差別にいためられた文書を煽動、拡大させ、そのことで陪審団への譲歩をみせかけつゝその実最高裁判への上告棄却を準備し、一級闘争をすめ、階級支配を安泰

社説

(一)

同盟(紅旗)第一回大会は成功に終った。これは、同盟の今日までの幾多の大會とほきわめて異っている。厳格な思想的・政治的統一を果しえず、中央集権的な地下党を首尾一貫して組織する地盤を形成しえず、どちらかといはては表面の大衆運動の必要に党建設をあわせてきた幾多のそれとは、ここにわが国の共产党主義のいぢるしい立憲れ—五〇数年にわたる共产主義運動の歴史からしても、現在の情勢のつまりからしても、庄倒

(二)

さぎない。われわれはこの路線のもとに土台をうちかため、この上に、敵のどんの潮流にすでに十数年間の長きにわたって属してきたので、この偏向、誤りは深くわれわれ自身にまたわが国の中革命的左翼にびりついてきた。しかしそれは

この間、われわれは主に小アルジョア

共産主義と格闘してきた。われわれはこ

の潮流にすでに十数年間の長きにわたって属してきたので、この偏向、誤りは深くわれわれ自身にまたわが国の中革命的左翼にびりついてきた。しかしそれは

この間、われわれは主に小アルジョア

共産主義と格闘してきた。われわれはこ

同盟第一回大会の成果を打固め

派フランクの単なる結合体として党を考え

（三）

第三回

（四）

（五）

（六）

（七）

（八）

（九）

（十）

（十一）

（十二）

（十三）

（十四）

（十五）

（十六）

（十七）

（十八）

（十九）

（二十）

（二十一）

（二十二）

（二十三）

（二十四）

（二十五）

（二十六）

（二十七）

（二十八）

（二十九）

（三十）

（三十一）

（三十二）

（三十三）

（三十四）

（三十五）

（三十六）

（三十七）

（三十八）

（三十九）

（四十）

（四十一）

（四十二）

（四十三）

（四十四）

（四十五）

（四十六）

（四十七）

（四十八）

（四十九）

（五十）

（五十一）

（五十二）

（五十三）

（五十四）

（五十五）

（五十六）

（五十七）

（五十八）

（五十九）

（六十）

（六十一）

（六十二）

（六十三）

（六十四）

（六十五）

（六十六）

（六十七）

（六十八）

（六十九）

（七十）

（七十一）

（七十二）

（七十三）

（七十四）

（七十五）

（七十六）

（七十七）

（七十八）

（七十九）

（八十）

（八十一）

（八十二）

（八十三）

（八十四）

（八十五）

（八十六）

（八十七）

（八十八）

（八十九）

（九十）

（九十一）

（九十二）

（九十三）

（九十四）

（九十五）

（九十六）

（九十七）

（九十八）

（九十九）

（一百）

（一百一）

（一百二）

（一百三）

（一百四）

（一百五）

（一百六）

（一百七）

（一百八）

（一百九）

（一百十）

（一百十一）

（一百十二）

（一百十三）

（一百十四）

（一百十五）

（一百十六）

（一百十七）

（一百十八）

（一百十九）

（一百二十）

（一百二十一）

（一百二十二）

（一百二十三）

（一百二十四）

（一百二十五）

（一百二十六）

（一百二十七）

（一百二十八）

（一百二十九）

（一百三十）

（一百三十一）

（一百三十二）

（一百三十三）

（一百三十四）

（一百三十五）

（一百三十六）

（一百三十七）

（一百三十八）

（一百三十九）

（一百四十）

（一百四十一）

（一百四十二）

の腐敗を裁くことはできない

退陣せられるが、この退陣劇には、児玉系の総合会員多数がからんでいたといふ。更にロッキード社は、ニクソンを使つて、田中（当時首相）に対し、他の米航空機メーカーの製品を買わずにロッキードのを買つよう圧力をかけていた。そして七年九月の田中・ニクソン会談後、「米国から三億三千万ドルの大型機などを購入する」という合意書が発表される。運輸省も、七年三月、大型機の予定を延期させ、田中・ニクソン会談の直前にあって「大型機の導入は一九七

な契約ができたとき十五億円、その六十日後と九十日後の二回分に分け五億円ずつ支払う」というもの。この事は、政府に対濱崎戒機国産化の決定を白紙還元させ、実事上P-3Cの導入という方向にむかわせる上で果した見玉の役割をロッキード社が高く評価したことの現れだと見える。

国会は事件を糾明することができることか？
答はノーである。
事件を糾明するには、容疑者を逮捕し、家宅捜査をやつて物的証拠を押収しなければならない。しかし、これをやる力をもつっているのは国会ではなく警察・検察等の機関である。そこで、これらの諸機関は、逮捕すべき「政府高官」及び資本家共の手先であるギャングの子分がま

ヤングの綱玉を逮捕するといふのか。」
「それはありえない」とだ。世論の圧力に押
されて事情聴取役やつたとしても、逮捕
居でしかいだらう。
たとえば、造船疑惑の場合は、どうだ
た。一九五四年一月の山下汽船幹部の
捕にはじまり、二月には有田一郎自由
副幹事長逮捕で政界へ波及した。この事
件は、「外航船建造利子補給法」など
成立をはかつた造船海運業界が政界にそ

治獻金をつぎこんだもの。しかし、検
當局が、佐藤素作自由黨幹事長の逮捕
訴を求める時点で、法相が指揮権を発
し、政界上層への疑惑の拡大を断ち切
た。

最も支配的な地位にある資本家集團
結ぶ、國家機構の中枢にある人々は、
の種の事件が明るみに出ると、必ず、
にある權力を使って真相の糾明を抑え
み、「スケープ・ゴート」をつくる。

ツプクラス百名、小佐野と丸紅・三井
産の役員を含む財界のトップクラスを
児玉はじめとする民間右翼五十名を
捕・查問し家宅捜査をやる必要がある
だが国会にはその力はない。国会は、
佐野や若狭にお出まし願つて「知らぬ
「存ぜぬ」「記憶なし」を拝聴するの
せいぜいである。

米国議会が真相を暴露するのでは
いかと甘い期待を抱く向きがある。「
キード事件を明るみに引き出したでは
いかという訳だ。一時商業新聞が、半
の議会は企業の腐敗をあげて良識の底

物販の小名は、日本で経営危機に陥つたこと、この生産で、軍需トラストを支えるのにカリフニアの銀行團だけでは力量不足であること、等によってロックフェラー、ガードナー、FNCBがロックキード支配をつて動き出したのである。

ロックキードを叩いた多国籍小資本主義的中心人物と見られるバーシー議員(副委員長)は、ロックフェラー姻戚関係であり、委員長のチャーチ、議員も東部や中西部の財界の支援をつけて大統領に出馬する機会をつかんでいるといわれる人物である。だが

(1) 何が暴露されたのか

事の根源は、あれこれの個人、資本ではなく(金融)資本主義そのものにある

「何が暴露されたのか。」

トライスターの場合から見てゆこう。

ロッキード対ダグラスの日航・全日空に対するエアバス売り込み戦が開始されたのは、一九六八年。ロッキード社は、同年七月、丸紅との間でトライスターに関する契約を結び、一九六九年一月には、児玉とのコンサルタント契約を成立させている。両社間の争いの為に数十回の交渉が繰り返され、児玉と

四年四月」と決定したが、ロッキード社に対するエアバス売り込み戦が開始されたのは、一九六八年。ロッキード社は、同年七月、丸紅との間でトライスターに関する契約を結び、一九六九年一月には、児玉とのコンサルタント契約を成

トライスターに決定する。

PSC対潜哨戒機の場合はどうだった

ロッキード社は、七年七月、児玉と

人脈で我が國の兵器業者

につてこれ程好都合なタイミングはなかつたに違いない。全日空は、田中・二

クソノ会談の一ヶ月後、ロッキード社の

崎重士・三義重等

を決めてしまった。

い腐れ縁をもつ防衛

らぬ間に大切な獲物

二クソは、大統領在任中、「アジア人をしてアジア人と闘かせる戦略」を盛んに提唱していた。それは、米国巨額の金融資本のアジアに於ける市場・労働・資源の支配を長期にわたって確保する必要と、過剰生産気味の米國製兵器をアジア人に売り込み、かつ、米国の赤字解消する必要とを調和させた戦略であつて、二クソ自身の重要な政治資金であるところのロングチード社を肥らせて、という意味をもつていたのである。この戦略は、フォード政権に於いても基本的

LAの躍進を見ておく
四月二日発売の米誌「ニューリバーリック」で、CIAが兎毛と接触し自身を支擡してた事実が露呈された。記事は次のように述べている。「ロッキード・エアクラフト社が一九六九年から七五年にかけて、日本の代理人および本政府要人への秘密の支払いの送金ルートに使っていたデューコー社は、CIA長年にわたり全世界的規模での資金操りの地下チャネルとして利用している。地下チャネルとして利用している。CIAは、この問題によると、CIAは、本において、米国の非公然外交政策目的のを追求するため、ロッキード社の資金的の

二月四日、米院外交委員会の多国籍企業小委員会の公聴会で、ロッキード社が児玉章夫や丸紅などにワイロ・買収資金を渡していた事実が露呈された。六日には、ロッキード社のコーチャン副会長が、「小佐野氏も関与」「日本政府高官にわいいろ」と証言。たちまち我が国は疑惑の渦に叩き込まれ、人民大衆の怒りは、未嘗有の深さと広がりをもつて自民党政権を押し包んだ。

ほんの数カ月前には、ブルジョア階級は、「金権政治」批判の矛先を鈍らせる為に登用した三木を引っ込み、「金権政治」の代名詞のよつな田中角栄を再び押し出そうとしていた。田中派は、反動姿勢の推進役として再浮上しようとしていた。官公労働者のスト権奪還ストに対する強圧、日共のスバ

イ査問事件に対する迎々しい反共ギャン。は、歴史の大大きな流れの中に発生したはロッキード事件に対する人民大衆の怒り田中派再浮上の出島をぐき、政府・自て、彼等を混乱させ、つちもさつちもド事件は、政治危機を自民党政府崩壊の段階に引き上げられた政治的大流動をめぐる争いを激化させて。労働者階級がお互いの相違を鮮明にして、大胆に利用できなければならぬ。

ハーンが展開された。しかし、これ
かない逆流でしかなかった。
りは、支配階級をぶるえ上げさせ、
民党の内部対立、疑心暗鬼をがまた
行かなさせてしまった。ロッキー
跋扈へ飛躍させたのである。
つある。全ての階級が政治権力を
�は、ロッキー事件によって新た
プロレタリア階級独裁の樹立にむ

会談、坂田リショーレンジャー会談の如きに、朝鮮半島での戦争の危険が騒ぎたられ、「海域防衛分担」が叫ばれ、西洋の広大な海域を日本が分担して対作戦に当る必要が、奇異な位に強調されたことは、我々の記憶に新しい。これ一機でも多くP-3Cを売りさばくうロッキード資本の欲望がなきしめるだつたのである。

時て太潜業いははれられが供給されると知られたと回憶している」と報じた。このように、(C) Aは、日本でも、米国巨大資本の経営支配と利潤取得の目的の為に表の半ができない事を、裏で画策してきた。うは、必要とあらば、暗殺とも、自衛にクーデターをやつせる(こと)も、何もやるだろつ。

ロソキード事件は、単に、政界・官財界の腐敗を暴露しただけのもので

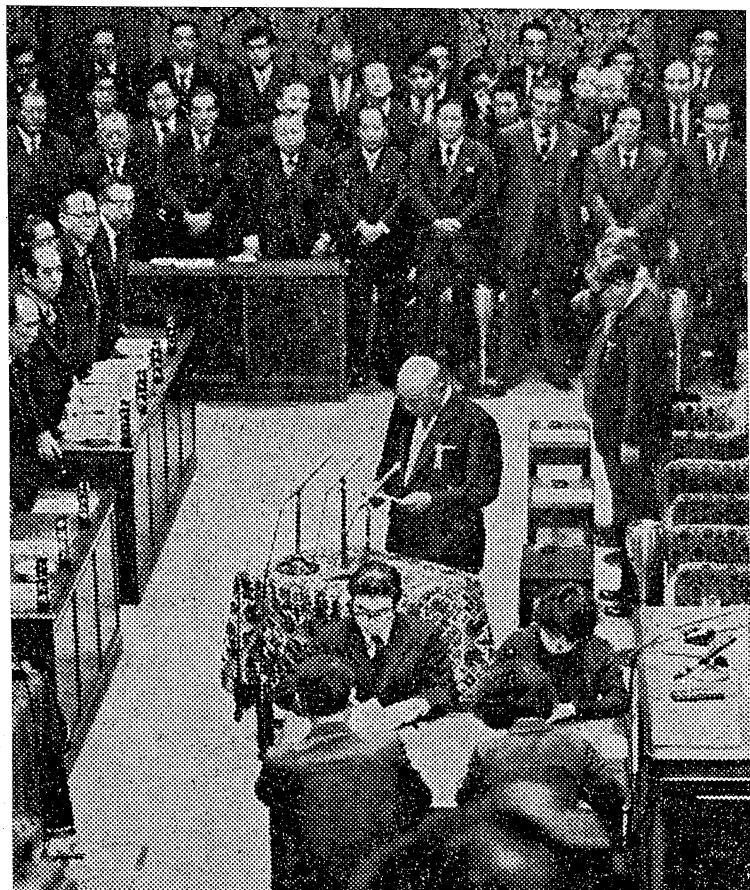
資本は、五十年代～六十年代に肥大化する。恐慌は資本の相互対立を激化させる。弱小な資本をドラスチックに没落させが、最も強大な金融資本は、この間で抗争要素になり上がった企業を叩きのめし。自らの傘下に收めようとする手を尽し、恐慌は金融寡頭制支配の再編・強化にての絶好の条件として利用した。そんがらが支配をねらう企業の一つがロビ

ロシキード事件の本質と労働者階級の使命

動の大部分に相乗りりていた可能性をもつてゐるといふ」児玉は「戦犯として三年半の刑期に服したあと拘置所から釈放され、四八年以來、CIAと協力関係にあつて、四月一日付の「ヨーヨーク・タイマー」

間もあ
民衆の味方であり、日本の国会といひて、
強い権限を持つてゐるからこの種の事
件を暴露してきたのだといつた觀念を
はやしていた。しかし、これは眞赤
つわりである。眞実は「」だ。

ブルジョア独裁の下でブルジョア



「良心に従い、知っていることを隠さず証言致します」と白々しくも、うそぶく小佐野賢治。挙臈する陣がサ連。

誰が事の真相を糾明し、事の根源を根絶できるのか？

国会も無力で、警察・検察もギャングの一味ならば、真相を糾明できるのは人民裁判だけである。事の根源が資本主義・金融資本主義にあるならば、その根絶は社会主義革命によってのみ可能でありそれを実行できるのは労働者階級だけである。

しかし、ロッキード事件が教えてくれた事の核心は、米帝と一握りのブルジョア支配層が國家機構を握っているということではなかったか。つまり、労働者階級・人民大衆が人民裁判をやろうとすれば

(3) 誰が事の真相を糾明し、事の根源を根絶できるのか

労働者階級は国家権力を握り、やつらを逮捕し、人民裁判に処さねばならない

労働者階級は国家権力を握り、やつらを逮捕し、人民裁判に処さねばならない

ツキード事件は何を
きつけているのか

トカゲの尻尾切り、そして江公民、社共政権も労働者・人民をだまし通せるものではない

(4) ロツキード事件

つきつけて いる トカゲの尻尾切り、そして江 も労働者・人民をだまし通せ

江公民、社共政権
せるものではない

ついで、増々広く深く蓄積され、一挙に噴出する機をうかがつてゐるかの如き状態にある。

七日会で「所感」を発表し、その中で次のように述べた。「いまでもなくロツキード問題は、徹底的に究明されなければならない。また私は、真相の説明が必

成多数で可決されたが、採決が野党三党（社・共）なわれたのはこれが初めて

本予算の審議へ、公抜きで行つたという。独裁の為の國家機構を樹立することなしに、又、大資本を没収することなし、「大企業本位の政治」に反対し、「金權政治の打破」を実行、「米國の巨大資本と我が國の大資本との競争」とよぶこと

ロツキード事件糾弾 三木自民党政府打倒 正規の攻囲軍を組織せ

よ
としてものである。資本主義の時代は、
指さず、資本主義に対して資本主義でな
くなるやうに願いして、いる小アルジヨ
アのあわれな姿をリに見るのは、が可能
る。資本主義を露骨に擁護すること、
資本主義に対する資本主義でなくなるよ
うにお願いするといふの間には、後者が一
見左翼的(見る)と以外何程の違、

しかし、野党各党の「断固」は、もうない限界がある。この「断固」は、議会のねじれで「断固」でしかなく、口論の大戦闘争が「議會」に進んで發展する」とに恐ろしく、事態が、ブルー

國には、ど
つまり、彼
しゃべりにお
ツキード事件
自民党の代議士にかわって自分達がブ
ルジヨア内閣の大臣席にすわる」とぞく
かない。
対する圧力”
怖する“断固
ヨア階級独
シヨア階級独
分解がすんでる。
その一つは、社（工）公認を申請とす
コントリア音

もない事は言つまでもないが、
このよな政治情勢の下では、労働者
は、次の諸點に重大な関心を払わねば
ならない。
即ち、ロッキード事件糾弾・自民党政
府打倒の大衆闘争を思い切って発展させ
ること、江公民路線・社共統一戦線の欺
瞞を見抜き、それらに対する警惕を労働

の小委員会は、ロックフェラー・モルガ
ン・F.N.C.B.にとつてはさわいで好まし
からぬ企業は叩くが、エクソン・GM・
G.E.・IBM・タウケミカルなどの行状を
あげてほんとうにしてない。小委
員会は、正義の味方としてロックードを
叩いたのではなく、超一流金融資本の手
先としてそうしたにちがいないのである。

米国の「ウォール・ストリート」紙は、一月一三日付で、つぎのように報じている。「ロッキードの人々は、他の大企業が行っている慣行を巢しただけなのに、自社の者が処分されるのは不公平などと扱いだと感じている」と。ロッキード攻撃の目的は、國の内外で、ロッキードの市場支配力を打ち砕き、この企業を窮地に陥れ、傘下に收めるやうにある。ロッキードのCIAに対する影響を断ち切ることは、その為の不可欠の任務の一つであった。CIAの「淨化」の為の委員会がロックフエラー副統領の下に設置されていることは、CIAの「淨化」の真実の内容をおのずから示しているが、ロッキードとCIAの深い関

關係の暴露を、この「淨化」の為の手段として用ひたことは明白である。即ち、口頭によるものと書面によるものとに於ける露羅が覆えられない範囲う限界である。

一環で
「存せぬ」「記憶なし」はもう通用しない
真相は、あますといふなく糾明され、
配屬に属する輩は、ほとんど残らず相
に処罰されることになるだつた。
又、労働者階級は、國家権力をその
に握つたとき、はじめて、大資本を没
し本国の経済を計画的に組織することができる。ところが、一部の反対派は、内とい
シキ
れてい
ックフ
の内外
内とい

い。」
心から學んでいた。本件については、すでに日本両国政府の間で資料の提供など相互協力についての合意がえられた。國内搜査権はすでに発動されている。今後の問題の解明は、あくまで當局の努力に待つべきであり、それが三権分立を基本とする民主國家の原則である。われわれは、さながらものと確信しており、それをすこぶるものと確信しております。されど、その事態を、日米独占資本の権益にわざわざも制約を加えるような（小）ブルジョア政府の出現に転化させない為の備えという政治的性格をもつてゐる。したがつて、彼らが自民党的な部と手を結んで政府を構成することは大いにあります。そこで、この動きの背後では、自民党單独政府崩壊に備える日米独占資本が、土之下へ隠れています。これが、まさにいよいよついで

古 典 学 習

(1)

共产党宣言「労働と資本」に学ぶ

(1) 何故、労働者階級は「宣言」の学習をせねばならないのか

一八四八年二月、マルクスの手によつて起草された「共産主義者同盟」の綱領である「宣言」は、近代ブルジョア社会において闘いに立ち上がりつた労働者階級の闘いの武器であり、もつとも首尾一貫したプロレタリアートの世界觀を表現している。

レーニンは「この著作のなかには新しい世界觀、社会生活の分野までも含む首尾一貫した唯物論、最もも企劃、社会生活の分野によつて實現している。

（2）「宣言」をつらぬく

根本思想
「宣言」をつらぬく根本思想について、マルクス、エンゲルス自身の言葉を要約しておこう。
「一八四七年には、社会主義は労働者の運動を意味していた。…そして、われわれは、當時すでにこれについては後で述べよう。

に、まったく断固として、「労働者の解放は労働階級自身の行為でなければならない」という意見

（2）「宣言」の学習をせねばならないのか

（3）「宣言」の学習をせねばならないのか

（4）「宣言」の学習をせねばならないのか

（5）「宣言」の経済学的基礎としての「賃労働と資本」

（6）「宣言」の政治的基礎としての「労働と資本」

（7）「宣言」の社会的基礎としての「労働と資本」

（8）「宣言」の思想的基礎としての「労働と資本」

（9）「宣言」の歴史的基礎としての「労働と資本」

（10）「宣言」の理論的基礎としての「労働と資本」

（11）「宣言」の実践的基礎としての「労働と資本」

（12）「宣言」の批評的基礎としての「労働と資本」

（13）「宣言」の批評的基礎としての「労働と資本」

（14）「宣言」の批評的基礎としての「労働と資本」

（15）「宣言」の批評的基礎としての「労働と資本」

（16）「宣言」の批評的基礎としての「労働と資本」

（17）「宣言」の批評的基礎としての「労働と資本」

（18）「宣言」の批評的基礎としての「労働と資本」

（19）「宣言」の批評的基礎としての「労働と資本」

（20）「宣言」の批評的基礎としての「労働と資本」

労働者階級解放の旗印

現代修正主義・組合主義批判の理論的武器

賃労働と資本

現代修正主義・組合主義批判の理論的武器

（3）私的所有の廢止とプロレタリア独裁

（4）労働者階級の闘争と資本主義の廢止

（5）「宣言」の経済学的基礎としての「賃労働と資本」

（6）資本は賃労働を前提とする

（7）労働と資本の対立と資本主義の廢止

（8）労働と資本の対立と資本主義の廢止

（9）労働と資本の対立と資本主義の廢止

（10）労働と資本の対立と資本主義の廢止

（11）労働と資本の対立と資本主義の廢止

（12）労働と資本の対立と資本主義の廢止

（13）労働と資本の対立と資本主義の廢止

（14）労働と資本の対立と資本主義の廢止

（15）労働と資本の対立と資本主義の廢止

（16）労働と資本の対立と資本主義の廢止

（17）労働と資本の対立と資本主義の廢止

解放の炎は消せない

二・南朝鮮三・一民主救国宣言の底流

文責・志村一平

地下活動を開拓し、その背面的関係である。それは一つのブルジョアジーの生産関係であり、ブルジョアジーの生産関係である。これは、この南朝鮮革命闘争は、その内政とその外政との間の緊密な連絡である。

第三に、この闘争は、労働者、農民、都市住民の、生産権を求める闘争である。これが、この南朝鮮革命闘争は、その内政とその外政との間の緊密な連絡である。

第四に、この闘争は、労働者、農民、都市住民の、生産権を求める闘争である。これが、この南朝鮮革命闘争は、その内政とその外政との間の緊密な連絡である。

第五に、この闘争は、労働者、農民、都市住民の、生産権を求める闘争である。これが、この南朝鮮革命闘争は、その内政とその外政との間の緊密な連絡である。

第六に、この闘争は、労働者、農民、都市住民の、生産権を求める闘争である。これが、この南朝鮮革命闘争は、その内政とその外政との間の緊密な連絡である。

第七に、この闘争は、労働者、農民、都市住民の、生産権を求める闘争である。これが、この南朝鮮革命闘争は、その内政とその外政との間の緊密な連絡である。

第八に、この闘争は、労働者、農民、都市住民の、生産権を求める闘争である。これが、この南朝鮮革命闘争は、その内政とその外政との間の緊密な連絡である。

第九に、この闘争は、労働者、農民、都市住民の、生産権を求める闘争である。これが、この南朝鮮革命闘争は、その内政とその外政との間の緊密な連絡である。

第十に、この闘争は、労働者、農民、都市住民の、生産権を求める闘争である。これが、この南朝鮮革命闘争は、その内政とその外政との間の緊密な連絡である。

第十一に、この闘争は、労働者、農民、都市住民の、生産権を求める闘争である。これが、この南朝鮮革命闘争は、その内政とその外政との間の緊密な連絡である。

第十二に、この闘争は、労働者、農民、都市住民の、生産権を求める闘争である。これが、この南朝鮮革命闘争は、その内政とその外政との間の緊密な連絡である。

（1）「宣言」をつらぬく

（2）「宣言」をつらぬく

（3）「宣言」をつらぬく

（4）「宣言」をつらぬく

（5）「宣言」をつらぬく

（6）「宣言」をつらぬく

（7）「宣言」をつらぬく

（8）「宣言」をつらぬく

（9）「宣言」をつらぬく

（10）「宣言」をつらぬく

（11）「宣言」をつらぬく

（12）「宣言」をつらぬく

（13）「宣言」をつらぬく

（14）「宣言」をつらぬく

（15）「宣言」をつらぬく

（16）「宣言」をつらぬく

（17）「宣言」をつらぬく

（18）「宣言」をつらぬく

（19）「宣言」をつらぬく

（20）「宣言」をつらぬく

（洋）

